



あら エッサくん
「フォローのしようがない状況」の巻
石田行生



あかや みどころ きょうつかやま やま があります。その昔、この山の山頂には2つの塚があり、その間は40メートルほど離れていました。

たいしょう ねん がつころ とつぜん きょうつかやま さんちよう もくぎよ 大正4年3月頃です。突然、経塚山の山頂から木魚をたたくような音が鳴り出したのです。その音はリズムよく50回くらい続いて鳴るとやみ、そして少し間を置くと、また鳴り出すのです。音が聞こえるのは夜ばかりで、雨の夜には音がしません。

このことを不思議に思った若者たちがある夜、勇んで山頂へ出かけました。若者たちは山道を登り、音が鳴っている塚へ近づきました。すると、近づくとつれ、もう一方の塚が鳴っているように聞こえるので、そちらへ行くと、今度はさっきまでいた元の塚が鳴っているように聞こえるのです。若者たちは何度も塚を往復しましたが、結局どちらから音が出ているかわかりませんでした。



もっとも、この塚が鳴り出したのは、今回が初めてではなく、明治27年、明治33年、明治37年、大正3年と、いずれも戦争出兵や、国の大事の前兆に鳴ると言われていましたので、村人は大いに心配しましたが、この時は何事もなく、ホッとしたということです。

赤屋小学校校庭からみる経塚山

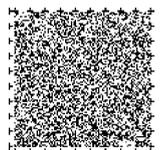


経塚山（伯太町赤屋）

やすぎ再発見

赤屋小学校の北東に送電線の鉄塔が立つ小高い山が見えます。見土路自治会と月坂自治会の間に立つ、この山がお話しに登場した経塚山です。

この山周辺は藩政期の本街道にあたり、徒歩や牛馬に頼った交通が主だった頃には、近くて便利なこの道を通して高江寸次に抜けるのが一般的でした。街道沿いには茶屋なども立ち、大いに繁盛したそうですが、明治24年に現在の安来道が開通し、峠の内や横屋を通るようになりました。経塚山の麓にはかわいらしい6体のお地藏さんが立っています。昔から街道を行く人々の往來を見守っていたことでしょう。



- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています●
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください●
- 自治会宛の発送等につきましては、市民参画課（TEL23-3067）までご連絡ください●

